

第 24 期第 7 回運営委員会報告

日時：平成 20 年 8 月 20 日（水）12：00～19:00

場所：JAMSTEC 東京事務所 大会議室

出席者（敬称略）（ 16 名/ 定足数 11 人）：歌田久司、津田敏隆、阿部琢美、石井 守、
石川尚人、臼井英之、河野英昭、北 和之、木戸ゆかり、齋藤昭則、高橋幸弘、田口 真、
長妻 努、野澤悟徳、山本 衛、清水久芳

欠席者（敬称略）（ 2 名）：小川康雄、吉川一朗

オブザーバ：中村正人

1. 前回（第 24 期第 6 回）運営委員会議事録の承認（石井）

- ・承認された。

2. 協賛・共催関係（清水）

- （1）共催：平成 20 年度「女子中高生夏の学校 2008－科学・技術者のたまご
たちへ」

主催：国立女性教育会館

日程：2008 年 8 月 14 日から 8 月 16 日

場所：国立女性教育会館（埼玉県比企郡）

- （2）協賛：第 20 回研究成果発表会

主催：海洋調査技術学会

日程：2008 年 11 月 17 日 から 11 月 18 日

場所：日本科学未来館（東京都江東区）

- （3）第 124 回 地球電磁気・地球惑星圏学会 総会および講演会

共催：東北大学グローバル COE プログラム「変動地球惑星学の統合教育研究拠点」

- （4）第 124 回 地球電磁気・地球惑星圏学会 総会および講演会

特別セッション「地震学と地球電磁気学の境界領域研究」

共催：地震学会

- （5）第 124 回 地球電磁気・地球惑星圏学会 総会および講演会

アウトリーチイベント「体感！日本の惑星研究最前線」

共同主催：仙台市天文台

日程：10 月 13 日（月）

開催地：仙台市天文台

3. 入退会審査（清水）

・入会：3名の入会を承認した。

正会員（一般）2名：小淵保幸（所属：株式会社ジェネシア、紹介会員：岡野章一・坂野井健）、古賀祐三（有限会社遊造、村山泰啓・久保田実）

正会員（学生）1名：福原始（京都大学生存圏研究所、小嶋浩嗣・上田義勝）

・退会：5名の退会を承認した。

退会5名：北村保夫、瀬戸正弘、田中 伸、新野賢爾、はしもとじょーじ

4. 会計監査委員会報告（山本）

7月1日に、平成19年度決算についての監査委員会が開催された。監査委員は船木實会員（極地研）と小原隆博会員（NICT）。決算資料案に重大な問題はなかった。主な指摘事項として、(1) 会費納入率を上げる努力と学生会員数を増やす努力の継続、(2) JPL 発送料の負担の見直し、(3) 支出額に余裕のある項目、特に教育広報活動と分科会活動の充実、(4) EPS 全体の収支の把握と、当学会からの分担金200万円の妥当性の検討、が挙げられた。また、教育広報活動充実のために、アウトリーチ活動の実績を会報・学会 Web にて報告し、学会全体での教育広報活動へのモチベーションの向上を促すべきであるという提案があった。

5. 秋学会（第124回講演会）について

5-1 プログラム関係（石川）

・秋学会のコマ割案が提示され、承認された。また、予稿集 CD のデザインが紹介された。

・秋学会開催までのスケジュールが確認された。8月25日にプログラム編成作業を完了し、WEB(CD)・冊子体プログラムの作成を行う。重要な日程は、以下の通り。

9月12日：冊子体プログラム印刷終了

9月30日：冊子体プログラム送付（会報と同封）

10月2日：予稿 PDF の WEB 閲覧開始

5-2 LOC 関係（高橋）

・準備状況について報告された。場所の確保と割り当てを完了した。分科会の募集はこれからであるが、昨年並みであれば会場に問題がないという見通しが報告された。

・秋学会を東北大学グローバル COE プログラム「変動地球惑星学の統合教育研究拠点」と共催の予定。

5-3 その他（石井・木戸・山本）

- ・保育室設置を3家族が希望していることが紹介された。LOCの部屋のうち一部屋を保育室として開放してほしいという希望が出された。
- ・プロアクティブからは、10月10日午後と11日に受付窓口担当者が派遣される。会費の支払可。

6. 学会連合について

6-1 概要（高橋）

- ・学会連合は、法人化と国際化を軸に活動していることが報告された。
- ・法人化は準備委員会にて議論されており、本年12月1日に一般社団法人申請を行う予定。法人化が認められ、法人発足後、可能な限り早期に公益社団法人申請を行う。
- ・上記2問題の他に、ポストク（キャリアパス）問題も重要課題としてとらえられていることが報告された。

6-2 09年度連合大会・SGEPSS固有セッションについて（石川）

- ・08年度大会でのレギュラーセッション（単独9セッション、共催1セッション）を09年度大会でも継続するという案が了承された。了承されたセッションの詳細は以下の通り。
 - SGEPSS 単独セッション(9): E108 太陽圏・惑星間空間、E109 宇宙プラズマ理論・シミュレーション、E110 電気伝導度・地殻活動電磁気学、E111 地磁気・古地磁気、E112 磁気圏-電離圏結合、E113 宇宙天気、E114 電離圏・熱圏、E115 大気圏・熱圏下部、E116 磁気圏構造とダイナミクス
 - 共催セッション(1): F118 大気化学（予定）
- ・上記セッションの他に、コンビーナからレギュラーセッション・共催セッションの申し込みがあった場合、その時点で検討を行う。

6-3 09年度連合大会プログラム委員（石川・津田）

- ・連合大会プログラム委員2名（正副各1名）は、連合での任期は1年間、8月に交代と決められているが、SGEPSS運営委員会での運用上、連合で決められた交代時期に新プログラム委員を選出することが困難である。これを解決するために、以下の運用案が提出され、了承された。
 - 連合大会プログラム委員はSGEPSS運営委員から選出される（現行通り）
 - 運営委員改選にあわせて、運営委員会連合担当として、新担当者を決める
 - 運営委員の任期にあわせて、連合大会プログラム委員の任期をSGEPSSとしては2年とする。
- 今期に関しては、現在の担当者（石川委員、河野委員）が3月まで継続する。

- ・ 連合大会次期副委員長選出について選考委員会で協議し、村山泰啓会員（NICT）を選出した。依頼の後、村山会員より内諾が得られた。

6-4 法人化準備委員会の現状（石井）

- ・ 8月18日に開催された法人化準備委員会について報告がされた。
- ・ 7月に、ワーキンググループ（財務WG、会員管理WG、セクション制WG、大会運営WG、ジャーナルWG）を立ち上げ、詳細について各WGでの議論を開始した。WGでの議論の結果は10月までに報告される予定。
- ・ 各WGにおける検討の現状報告の概要についての説明があり、見通しの妥当性と各WGの検討結果の不整合性について、今後要調整であることが指摘された。
- ・ 連合法人化前の学会としての手続きについて再確認された。連合解散と新法人立ち上げに際し、学協会による審議が行われる。SGEPSSとしての総意を確認するため、新法人の定款案を会員に周知し、総会にて審議する。

6-5 新法人法への対応シンポジウム報告（歌田）

- ・ 7月29日に開催された、日本学術会議主催「新法人法への対応シンポジウム 一学協会の公益性の確立に向けてー」における、税制、一般法人制度、公益法人制度の3項目についての講演と質疑応答の内容について報告された。法人化についての判断は、主に税制と照らし合わせて考えるとよいことが報告された。
- ・ SGEPSSとしては、急いで法人格を得る必要はないという意見が出された。新法人法施行後の様子を見つつ、今後判断をする。

7. アウトリーチ活動について

7-1 アウトリーチイベント（長妻）

- ・ イベント準備についての進捗状況報告がされた。準備には5-6人が携わっており、これまでに内容の検討と講師選出・依頼を行った。今後、イベント開催の広報を開始する。
- ・ イベント参加者には、仙台市天文台の常設展示の入場料を負担していただく。（一般 600円、高校生 350円、小中学生 250円）
- ・ 今後、成果公開科研費と教育広報活動を有効に活用するために、アウトリーチイベント開催予算を、単年ではなく複数年を見通して運用するという提案があった。

7-2 アウトリーチ Web 関係（北）

- ・ トップページ案が公開され、意見を募集していることが紹介された。また、コンテンツ案（構成）が提示された。
- ・ 学校教育・アウトリーチ活動アンケート案が提示された。送付先は連合大会高校生セッションに参加した学校（13校）他。有効回答数10以上を目標とする。

8. EPS 関係（齋藤・田口）

・ 7 月 29 日に開催された連合のジャーナル検討会と、8 月 19 日に開催された学協会ジャーナル関係話し合いについて報告された。

9. 男女共同参画関係について

9-1. 学協会連絡会関係（長妻・木戸）

・ 学協会連絡会が 8 月 4 日に開催された。
・ 10 月 7 日に男女共同参画シンポジウムが京都大学にて開催される予定。幹事学会は JPGU。
・ 女子中高生夏の学校が 8 月 14 日から 16 日の期間に開催された。SGEPSS からは、ポスター提示とキャリア相談を行った。また、アンケートによると、地球・宇宙に興味を持つ生徒の割合が高く、継続的に参加することが有益であるという報告があった。
・ アウトリーチ部会と共同で情報を発信したいという意見があり、今後検討することとした。

9-2. 大規模調査報告書利用ガイドライン(田口)

・ 8 月 4 日に第 3 回運営委員会が開催され、「科学技術系専門職における男女共同参画実態の大規模調査」男女共同参画学協会連絡会(2008) 報告書利用について検討されたことが報告された。
・ 提示された「報告書利用ガイドライン」と「個人情報保護方針」について説明され、文章については問題がないことが確認され、承認された。

10. 60 周年記念事業について（石井）

・ 第 4 期の原稿執筆者候補のリストアップを完了した。今後原稿を依頼する。
・ 今期中に全ての原稿を集め、来年度早々の印刷を目指す。

11. 学会 Web 関係（臼井・野澤）

・ 学会 Web ページ更新の進捗状況が報告された。メインページの変更は完了しており、今後、下層ページの更新を行う。学生アルバイトを雇い、対応する。
・ 学会カレンダーの周知と情報収集への対応を完了した。
・ 電子委任状は秋学会でも採用する。
・ 今後、学会 Web とアウトリーチ Web が統一予定であることが報告された。

12. 学校教育 WG 関連（北）

・ 高校地学関係者を対象とした冊子作成の進捗状況について報告された。
・ 今年中に高校関係者に冊子原稿を配布し、意見を募る。
・ 著作権の所在について質問があった。記述内容の使用法も含め、出版社に確認する。

13. 平成 21 年秋学会開催地（石井）

- ・平成 21 年秋学会の開催候補地について議論を行った。

14. 集中審議事項

14-1 学会発表・退会についての内規改定（石井・石川）

- ・地球電磁気・地球惑星圏学会内規第 4 条 4 項の改訂案が提示され、内容と内規としての適切性について議論をした。以下、【 】内の文を現行の第 4 条 4 項に付記し、第 25 条の運用についての内規として扱うことが承認された。

【規約第 27 条により退会した会員については、運営委員会での審議の上再入会を拒否することがある】

- ・現行の学会発表投稿規程についての問題が指摘され、学会発表投稿規程明確化のための 2 案が提出された。また、学会発表投稿規程を内規とするべきだという案が出され、了承された。以下【 】内の案を新設第 7 条の基本とし、今後文言を検討する。

【投稿規程

- (1) レギュラーセッション：筆頭著者 1 名につき、口頭発表一件、ポスター発表一件までの最大 2 件。レギュラーセッション内での招待講演は、口頭発表を申し込んでいないセッションで可能。
- (2) 特別セッション：レギュラーセッションに加えて、特別セッションでの発表が可能。招待/一般の区別なく、筆頭著者 1 名につき、口頭発表一件、ポスター発表一件までの最大二件。
- (3) 非会員のみによる発表は受け付けない。但し、特別セッションと招待講演においては可能。

】

14-2 新表彰制度（石川・石井）

- ・特別表彰制度に関する内規第 8 条の新設が提案され、議論の結果、承認された。内容を以下【 】に示す。

【地球電磁気・地球惑星圏学会特別表彰内規

第 1 条 地球電磁気・地球惑星圏学会（以下、当学会という）に特別表彰を設ける。本表彰は当学会の活動に関わる貢献（技術支援、研究支援、教育・啓蒙活動、多年にわたる学会への貢献、等）に対して、特に該当者がいる場合に表彰する。

第 2 条 受賞者は当学会会員、非会員を問わない。

第 3 条 受賞者は次の手続きを経て決定する。

- (1) 本学会会員が受賞候補者を会長に推薦する。推薦文は書式自由とする。

(2)会長は推薦を受けた候補者について評議委員会にはかる

(3)評議委員会は議決により受賞者を決定する。

第4条 表彰は賞状及びメダルとし、総会においてこれを授与する。

】

・新表彰制度に関する支出は、一般会計より賄う。

14-3 シニア会員の位置付け（石井・臼井）

・シニア会員制度の運用についての議論を行い、審査手続き等について確認をした。

・シニア会員制度の周知は、今後も継続して行う。

14-4 名簿のありかた（小川・石井）

・今年度末に作成予定の名簿について、冊子体の必要性が議論された。

・個人情報保護の観点からは冊子体は情報流出源となる可能性があり、また、電子版の情報はMMBから得られるので、冊子体名簿の廃止が可能であるという意見があった。これに対し、冊子体の利便性、規約の掲載、賛助会員の広告の掲載を考えると、冊子体は廃止すべきではないという意見が出された。議論の結果、冊子体名簿も作成することとした。

・名簿に掲載する情報を、デフォルトでは所属等、必要最小限にし、自宅情報は要望がなければ掲載しないこととした。

14-5 特別セッションのあり方について（石川）

・特別セッションは、セッションの特性（パラレルセッションが無いほうがよい）とプログラム編成の問題から、現行の2件から1件に減らすべきであるという意見が出された。今後も議論を継続する。

15. 次回開催日

次回運営委員会は秋季大会(10月9日-12日)中に開催する。運営委員会、評議委員会および総会の日程は以下の通り。

10月9日（木）：運営委員会

10月10日（金）：評議員会

10月11日（土）：総会

16. その他

16-1 宇宙基本法について（オブザーバ：中村正人会員）

・宇宙基本法施行を控え、今後学会・研究所等で必要な対応を検討するために必要な情報が周知された。

・ボトムアップ、独立性という科学進展に必要な条件を守るための努力を継続することが

確認された。

16-2 学会からのサポートレターについて

- ・新規プロジェクト、研究所評価書類等申請時の、学会からのサポートレターの有用性と妥当性について議論された。
- ・必要に応じて、地球惑星科学連合にもサポートレターの発行を働きかける必要があるという意見が出された。

(清水久芳)